



飛騨の高山でこれらの人たちを祀る「飛騨匠神社」が、堀端町、飛騨護国神社境内に出来上がった。左甚五郎はじめ多くの棟梁(とうりょう)工人をうみ「飛騨匠」の名を残している神社は小さなつくりだが、出来ばえは精密なもの。そのうえ、この神社の建設は明治維新以来飛騨匠の伝統を継ぐ人たちの宿題となっていただけに関係者の喜びはひとしお。

今度の建設は去る 33 年春ごろから高山市の大工組合員堀新造さんと下島一郎さんの 2 人が同組合を代表して精魂こめてつくってきたもので、高さ約 1 メートルの石台に間口、奥行き各 1.5 メートル、高さ約 2 メートルの神殿だ。

明治維新のころ、すでに計画され、内務省へ飛騨の有力者たちが連名で嘆願書を出したが、当時は神社の新築が認められなかったという。その後、法律がゆるめられ、工事にかかったが、今度は資金難などのため一部つくっただけで延べ約 1 年間工事を中止していた。今度完成までこぎつけたのは飛騨地方の木材関係者などの間に資金面の協力が得られたからで、明治初年以来 90 余年でようやく出来上がった。

神社には故人となった工匠たちの位牌と今後の大工職人でなくなった人の位牌も納めるほか、年貢米を納める代わりに京都の御所の普請に出た大工がその仕事ぶりをたたえられて受けた菊の御紋入りの弓と当時の飛騨匠の名声をつづった古文書などを神宝として納める。

(第 4 代)長沢秋太郎高山大工組合長の話 長い間の夢だった匠神社が我々の代に出来たことは大変うれしい。なくなったたくさん先輩たちもよろこんでくれることでしょう。いま飛騨国分寺にまつられてある「飛騨匠木鶴大明神」の木像が匠神社に飾れないのが残念だ。以前匠神社は国分寺内に神殿を持っていたが、あるとき大工と住職の意見が対立して別れることになった。そのとき匠の木像だけ大工側に渡されなかった。近々に今の住職にお願いして何とかもらい受けたいと思っています。(朝日新聞 飛騨版 昭和 36 年 9 月 19 日)



0001\_全体像



0002\_全体像



0003\_全体像



0004\_全体像



0005\_全体像



0006\_全体像



0007\_全体像



0008\_全体像



0009\_全体像



0010\_全体像



0011\_全体像



0012\_全体像



0013\_全体像



0014\_全体像



0015\_全体像



0016\_全体像



0017\_全体像



0018\_全体像



0019\_全体像



0020\_匠神社



0021\_匠神社



0022\_匠神社



0023\_匠神社



0024\_匠神社



0025\_匠神社



0026\_匠神社



0027\_匠神社



0028\_匠神社



0029\_匠神社



0030\_匠神社



0031\_匠神社



0032\_匠神社



0033\_匠神社



0034\_匠神社



0035\_匠神社



0036\_匠神社



0037\_匠神社



0038\_匠神社



0039\_匠神社



0040\_匠神社



0041\_匠神社



0042\_匠神社



0043\_匠神社



0044\_匠神社



0045\_匠神社



0046\_匠神社



0047\_匠神社



0048\_周辺



0049\_周辺



0050\_屋根



0051\_屋根



0052\_屋根



0053\_屋根



0054\_屋根



0055\_屋根



0056\_彫刻



0057\_彫刻



0058\_彫刻



0059\_彫刻



0060\_彫刻



0061\_彫刻



0062\_彫刻



0063\_彫刻



0064\_彫刻



0065\_彫刻



0066\_彫刻



0067\_彫刻



0068\_新聞記事



0069\_正面



0070\_正面



0071\_高欄



0072\_高欄



0073\_高欄



0074\_高欄



0075\_高欄



0076\_高欄



0077\_高欄